



# 郷土のかぜ

仙台市民図書館 郷土資料コーナーから

水沢 伊達家  
九条 藤

## 「郷土の宝」はいつまでも

市民図書館長 樋口 千恵

今年4月から、市民図書館長を務めさせていただくことになりました。

前職場は環境局ですが、以前は地域づくりや生涯学習などの仕事も経験しました。

中でも思い出深いのは、本市で区役所制度がスタートして数年の若かりし頃、当時勤務していた太白区の魅力を、区民の皆様とともに醸成していく事業を担当した頃のことです。

担当者としては、夢はあるものの雲をつかむような不安を感じつつ、まずは上司に相談しながら、区民の皆様による編集委員を募り、区の魅力を再発見する冊子を作って広く魅力を発信することにしました。

こうして、頼りない担当職員をひっぱっていくほどエネルギーあふれる編集委員の方々とともに編集したのが「ディスカバーたいはく」です。編集委員の皆様、地域に対する熱い思いや深く幅広い知識の賜物か、完成した冊子は好評をいただき、その後も、区の自然を取り上げた第1号に続き、歴史や昔話などテーマを変えて、毎年1冊作成しました。

もともと太白区育ちではない私も、編纂作業に携わった経験から、広瀬橋のたもとにある「橋姫」を祀る祠と供養碑を通る際には、今も特別な感慨を覚えます。

この祠は、昔、長町と河原町を結ぶ橋を架けることになった際、長雨続きで橋が架けられず、水神様の怒りを鎮めるため、すすんで人柱になったという長者のひとり娘「愛姫」を橋姫として祀り、いつしか橋や土木の神様として信仰されるようになったものだといいます。

人々の幸せのため、優しい笑みを浮かべ生きてきたまま埋められたという愛姫の解脱した心境には到底なれませんが、天気の良い日に橋の上から広瀬川のきらめきを眺めた後、祠に手を合わせていると、一人でも多くの方に手にとってもらおう郷土の冊子を作ろうと、編集委員の方々とともに意気軒昂だったあの貴重な日々を思い出します。

冊子でご紹介した自然や史跡などを訪ねる探訪会も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため今のところ中止となっていますが、20年以上続いてきたようです。それほど、生まれ育った場所や、住んでいる場所のことを深く知りたいという人々の探求心は、恒久的なものだということでしょうか。

今度は図書館で、郷土にかかわる仕事に楽しみながら携わってまいりたいと思います。

### <参考図書>

『太白区の伝説』 「ディスカバーたいはく」編集会議／編 S38頁

## ■ある日のレファレンス

県外の方から、次のような調査依頼が届きました。

その方は作曲家である納所弁次郎（のうしょ べんじろう）氏について調べており、1936年（昭和11年）5月13日朝日新聞朝刊（データベースで調べたそうです）に「昭和9年8月以来仙台市仲ノ町に居住老後を受孫達と共に送ってゐたが十一日午前十時動脈瘤硬化症のため逝去享年七十二」とあるが、弁次郎氏についての郷土資料、もしくは、地元新聞の慶弔欄等に何か載っていないか調べてほしいとの内容でした。

さっそく、当時の河北新報の紙面、『仙台市史』『宮城県史』ほか『仙臺人名大辞典』や『宮城県百科事典』等の郷土資料で探してみたものの、弁次郎氏の名前を見つけることはできませんでした。

そして、河北新報のデータベースで名前を検索してようやく、平成4年10月17日付の河北新報朝刊に『音楽教育家・作曲家で、慶応元年、仙台に生まれ、華族女学校（学習院）教授を長く務め「うさぎとかめ」や「おつきさま」などの作曲があり、昭和9年古希祝賀会を受け、仙台に引退し、昭和11年没した』という記事が見つかりました。結局、依頼者には調べて分かった内容のみお伝えし、レファレンスを終了としましたが、読者の方で、何か知っている情報がありましたら、郷土担当まで教えてください。

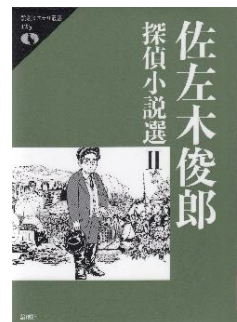
※ 童謡を調べている中で『どんぐりころころ』の作詞者、青木存義氏が松島町出身という事もわかりました

## ■新着図書紹介（郷土・参考資料コーナーに新しく入った図書）

### 『佐左木俊郎探偵小説選Ⅱ』 佐左木俊郎著 論創社 S93 サ

昨年、仙台文学館において「佐左木俊郎」という岩出山出身の作家の生誕百二十年記念特別展がありました。佐左木俊郎は小説家と新潮社の編集者という二つの顔を持ち、編集者としては日本初の書き下ろし探偵小説全集「新作探偵小説全集」の企画編集にたずさわり、作家としても参加しました。この編集の中で夢野久作の「ドグラ・マグラ」のもととなる原稿を手にし刊行を夢見ましたが、33歳という若さで病により急逝してしまいました。郷土ゆかりの作家として記憶しておきたい人物です。

さてこのたび、論創社ミステリ叢書から佐左木俊郎探偵小説選の2巻目が出版されました。昭和初期特有の重い陰鬱とした空気が満ちています。人と人とのすれ違い、思い違いが重なって、モヤっとした結末となっていく…現代でいうところの「イヤミス」です。



### 『仙台北屋時間』 前野久美子／編 ビブランタン S02 セ

仙台の本屋めぐりガイドブックです。発行元の名前は「ビブランタン」— 暗闇を照らす灯としての本という意味を込めて。仙台にゆかりのある5人のエッセイとともに、市内で書店を営む3人の方々が徒歩や自転車で案内してくれます。大きな書店から老舗店、トラックで販売する移動本屋さん、古民家を改装したセレクト書店、個性的な古書店など、本屋の魅力がいっぱいです。写真、手描きイラスト、オリジナル地図つきで、作家ゆかりの場所や文学碑など寄り道情報もたくさんあり、本屋めぐりの世界がひろがります。

本のあかりをたどりながら、仙台の街をゆっくり歩きたくなる一冊です。



■編集後記■ 今年度最初の「郷土のかぜ」をお届けします。さてこの度、4階・郷土コーナーでは、地元ゆかりのある著名人にスポットを当てた「ゆかり文庫」を新たに開設いたしました。荒木飛呂彦、伊坂幸太郎、伊東豊雄、熊谷達也、佐伯一麦、鷲田清一、各氏のコーナーを設けましたので、どうぞお気軽にお越しください。

発行：仙台市民図書館 郷土・参考資料コーナー  
所在地：仙台市青葉区春日町2-1 せんだいメディアテーク内 TEL:022-261-1585